

実施指針改定版について

- 「4 実施のための主要原則」の「(2) 包摂性」で、前実施指針にあった「人権の尊重」「ジェンダー平等の実現」「ジェンダーの視点の主流化」を明記されたことに対し歓迎と感謝
- ジェンダーが分野横断的な中核課題であることに鑑み、是非、優先課題(人間)に「**ジェンダー平等の実現・ジェンダー格差の解消**」を
- 「横串」としての**ジェンダー平等**の重要性をより明確に
- **ジェンダー統計の不備**を克服するための予算措置を
- **国際人権基準に則った人権保障**に向けた努力を
- **国内で拡がる格差や貧困**への危機感と対応の必要性
- 「優先分野」と「三本柱」の**関係性**の明確化を
- **政策の一貫性を確保するための政府内の体制**の明確化を

SDGsと人権

- SDGsの中心理念：①「私たちの世界を変革する」 ②「誰ひとり取り残さない」
- 一人ひとりを大切にしながら世界を変革するための目標がSDGs：開発概念の発展と深化（eg.人間の安全保障）にも呼応
- 「誰ひとり取り残さない」ためには平等と非差別の原則が不可欠
- SDGsにおける多様性と包摂性の強調：国籍、民族、性別、宗教、障害、肌の色、豊かさ、出身、年齢、地理的条件等にかかわらず
- SDGsの核には人権がある：日本における人権状況を踏まえ、「絵に描いた餅」「机上の空論」にしないための取組を
- 地域におけるSDGs実施に向けた取組からは、異なる分野での丁寧な議論を通じ、様々な分野の課題の根底には人権があることが明らかになってきている（例：KANSAI-SDGs市民アジェンダ）



「一丁目一番地」としてのジェンダー課題

- ジェンダーは分野横断的課題。ではどうして目標5があるのか
- SDGs策定過程での「ジェンダーだけを個別に取り上げた目標をつくるか」（ゲッター化する??）あるいは「あらゆる分野にジェンダー課題を盛り込むか」（忘れられる??）という議論
- 結論：独立した目標を設定すると同時に他のあらゆる分野にジェンダー課題を盛り込む
- そのことにより、①問題を可視化する ②構造的原因に働きかける ③ジェンダー平等を他の目標実現に結びつける
- ベルテルスマン財団／SDSNとOECDの両方から課題があると指摘されているのがSDG5（ジェンダー）とSDG10（不平等）：人権とジェンダーは日本のSDGs実施にあたっての重要課題
- ジェンダー課題の解決は社会全体を変革する